



13世紀建造のキルケニー城

山田恒一郎 / 文・写真



六角柱が敷き詰まったジャイアンツ・コースウェイ



ジャイアンツ・コースウェイの石柱群を彷徨う

ス、タクシー等を駆使すると、4～5時間の範囲内です、タクシー等を駆使すると、4～5時間の範囲内です。小規模ながら伝統的な老舗のゲストハウスをはじめ、イン（飲食店が経営する宿）、コテージ、民宿等が全島に限らず整備され、世界中の観光客を待つ。クリーンで荘厳なイメージ満点のアイルランドの自然景観を中心に、アイルランド観光の魅力を再発見しよう。

◆息をのむ大自然の景観美

天地創造の神々が残した風景とまで例えられる、壮大でマジェスティックな地の果ての造形がアイルランドの西海岸に沿って連なる。主な海浜景観だけでも、北から順に、ジャイアンツ・コースウェイ（世界遺産）、

◆脚光浴びるアイルランド観光

妖精の国、ケルトの音楽とアイリッシュ・ダンスの国、古代ケルト遺跡に満ちたミステリアスな国など、ケルトの文化に彩られた魅惑の国アイルランド（連合王国に属す北アイルランドを含む）が、コロナ後の海外観光地として、今、脚光を浴びる。

北海道より少し大きな面積を有する島国アイルランドは、欧州最西端に位置（欧州大陸から遠く離れたアイスランドを除く）し、その西海岸は、奇岩奇石、大断崖、大海浜から成るダイナミックな自然景観に縁取られ、6km彼方の新大陸まで広がる大西洋に直接面する。目にも鮮やかな緑草に限らず覆われた岩盤台地を大西洋からエコロジカルな潮風が吹き渡っていくクリーンな土地、アイルランド。都市部は、人口集積を招く高層建築とは無縁の伝統的な石造建築が立ち並ぶクラシックな都市環境が魅力だ。ソーシャル・ディスタンスを保ち、オーバー・ツーリズムを避け得る「エメラルドの島」アイルランドが、コロナ後の海外観光適地として脚光を浴びる。中国、韓国を含め極東地域からは、ヘルシンキ経由の便利な乗り継ぎ航空便が就航し、ゆくゆく航空輸送が正常化すると、11時間余りで首都ダブリンに直接入国できる。ダブリンからの島内移動は、幹線鉄道と連絡の良い路線バ



ジャイアンツ・コースウェイ背後のロック・キャニオン



石積み of ドウン・エンガス城砦に登る。



切り立った岩盤海岸にドウン・エンガス城砦は建つ。

スコットランドの巨人ベナンドナーが一目散に逃げる途中、追手を断つために敷石を蹴散らした跡だという。

ジャイアンツ・コーズウェイの背後には、同じく六角柱によって形成された垂直の断崖が迫る。目が眩みそうな高所に登り、遮るものがない北大西洋の大海原を見晴るかしながら、クリフ・ウォーキングを楽しむ人たちが後を絶たない。

◆イニシュモア島のドウン・エンガス

住民すべてがゲール語（アイルランドの古語）を話し、アイルランド人の心の故里といわれる場所が、アイルランド西部、ゴールウェイ湾の沖に浮かぶアラン諸島。ケルト人がこの島々に初めて入植したとき、すでに先住民が住み栄えていたという。その後、バイキングやイギリス人の侵入など苦難の歴史を積み重ねてきたアイルランド本島と隔絶したため、アラン諸島には、今なお古代ケルト人の文化遺跡が数多く残る。

3島から成るアラン諸島のうち、最大の島が人口900人のイニシュモア。この島の南西端、高さ90mの断崖絶壁に建つドウン・エンガスは、今から3100年前の鉄器時代に建造された石造の城砦（又は神殿）。島の船着き場からミニ・バスで「ドウン・エンガス」への登山口まで運んでもらい、ゴツゴツした岩石の道を登ること半時間、丘の上に建つ石造城砦に忍び寄る。城砦の外側は、固い一枚岩で出来上がった不毛の大地で、その縁で高さ90mの断崖絶壁となって大海原を遮断し、押し寄せる

ドウン・エンガス、モハーの断崖（バレン国立公園）、そしてスケリッグ島（世界遺産）。以上4ヶ所の海岸景観に加え、深く切れ込んだ谷底に5つの氷河湖を抱え、神秘的なまでに静寂な大渓谷として知られるギャップ・オブ・ダンロー（キラニー国立公園）まで足を伸ばそう。アイルランド島の豊かで偉大な自然景観は、どれも旅人の脳裏に焼き付いて離れない。

◆ジャイアンツ・コーズウェイ

アイルランド島の北端にあるジャイアンツ・コーズウェイ（巨人の石道）は、巨人伝説で知られる奇岩の海岸で、6千年前の太古に噴火した火山の溶岩が冷える過程でひび割れた六角柱が延々5kmにわたって海岸を埋め尽くす。その数、4万本余り。波打ち寄せる海岸に突き出した規則正しい石柱の森を彷徨ううちに、誰でも太古の地球に連れ戻されたような不思議な体験をする。

ケルト人の伝説によれば、古代アイルランドの巨人フィン・マックールが、スコットランドの巨人ベナンドナーと力比べに挑んだという。アイルランドの巨人フィン・マックールは、相手のベナンドナーが海を渡って来れるように巨大な踏み石を海に敷いて待った。いよいよ、闘いの日、勇んで海岸に上がったスコットランドの巨人ベナンドナーは、フィン・マックールがくるまっていた大きな揺り籠に出遭うと、その揺り籠に眠る大きな赤ん坊の父親はさらに大きな巨人に違いないと思い込み、怖気づいて逃げ帰ったという。海岸に突き出した六角柱は、



高さ90mの一枚岩の断崖が続くドウン・エンガスの海岸



「モハーの断崖」の遊歩道をクリフ・ウォークする。



モハーの断崖の縁に伏せ、奇跡の造形を俯瞰する。



120 mから 200 mの切り立った岩崖が 8 kmも続くモハーの断崖

天候に襲われれば、文字通り「破滅の断崖」に豹変する怖さを潜めていることを忘れてはならない。

◆スケリッグ島

アイルランドの南西端、ケリー半島の沖合い 11 kmにあるスケリッグ島は、まさに欧州最西端の地だ。この地の果ての孤島の頂に起源 5 世紀ごろに原始キリスト教の修験僧たちが立てこもり祈りの日々を送った。一年中、北大西洋の荒波が押し寄せ、時化ることも多い断崖絶壁の島は、俗世界から切り離された霊界といえる。今もなお、この孤島に渡り、祈りを捧げる人たちが絶えない。スケリッグ島は二子島で、大きい島がスケリッグ・マイケル、小さい島が、スモール・スケリッグ。米映画「スター・ウォーズ」の「フォースの覚醒」で空撮され大写



欧州最西端の孤島スケリッグ島 (写真はスケリッグ・マイケル)

荒波を砕け散らせている。巨大で荘厳な断崖は、どんな生物も寄せ付けようとしない荒涼さと神秘的な自然力を潜め、息を呑む。断崖は、はるか彼方、島の果てまで延々と続く。ワイルドな自然環境に身を曝して生きた古代人の精神は、強く、厳しく、育まれたことだろう。

石灰質の岩盤で出来上がったイニシュモア島には土がない。絶えず、大海原から吹き付ける強風で作物が飛ばされないように石堀をつくって畑を囲み、岩を砕いて海藻を混ぜた粘土を敷いて、畑作を営んだ。過酷な自然と共存すること 3 千年。今も多くのケルト人の子孫が住み着くイニシュモア島の風土に魅かれ、年間 20 万人に上る人々が小船でこの小島に渡る。

◆モハーの断崖

現地語で「破滅の崖」という名の「モハーの断崖」は、首都ダブリンから西へ約 250 km、広大なバレン国立公園の西端に位置する。およそ 3 億年前に形成された岩盤台地が大西洋の荒波に浸食され続け、今日の長大な断崖海岸が出来上がった。大西洋の大波を遮断するかのようには聳え立ち、高さにして 120 m から 200 m 超の切り立った絶壁が延々 8 km にわたって連なる。断崖の最高地点 (214 m) に建つオブライエン塔は、アイルランド王の子孫サー・コーネリアス・オブライエンによって 1835 年に建てられた見張り塔だ。オブライエン塔から望むモハーの断崖は、圧巻と言うほかはない。モハーの断崖は、古くは、デヴィッド・リーン監督の米映画「ライアの娘」の冒頭に使われ、最近ではハリー・ポッターシリーズ「謎のプリンセス」で「狂気の断崖」として登場し話題となった。現在はアイルランド屈指の観光地に成長し、国の内外から年間百万人の観光客を迎える。

「モハーの断崖」では、目前に迫る大断崖をじっと望観するもよし、崖つぶちに近寄り、足元の岩肌から洋上彼方の水平線まで大俯瞰するもよし。崖に沿って整備された遊歩道を潮風に身を晒して歩き始める老いも若きも、共に精気に満ち溢れて足取りを軽くする。だが、悪



モハーの断崖で潮風に吹かれリラックスする。



繁殖期を迎えた海鳥が集まるスケリッグ島 (写真はスモール・スケリッグ)

しになって現れる両島は、誰の目にもこの世のものとは映らない。

だが、一見奇怪さが漂うスケリッグ島は、実は、世界第二の渡り鳥の巣窟でもある。大型のカツオドリやミツユビカモメなどに交じってスケリッグ島に渡ってくる「パフィン」(ニシツノメドリ)は、赤く大きな嘴、角が出たような目、オウムかペンギンのような出で立ちの海鳥で、北半球の洋上を生息域とする。夏場を迎えると、このパフィンの大群がスケリッグ島に飛来して、この島で繁殖し、再び南方の洋上に飛去して行く。世界中でアイドルとなった珍しい海鳥を一目見たいと子ども連れの家族が、この島に引きも切らずに押し寄せる。地の果ての奇怪島は、渡り鳥たちの楽園だ。



紀元前に修行僧が立てこもった宗教施設が残るスケリッグ島では、僧侶の祈禱が今なお続く。



スケリッグ島に飛来するパフィン (和名はニシツノメドリ)



世界遺産のスケリッグ島。(写真は船が出れば上陸可能なスケリッグ・マイケル)
(上) 修行僧が整備した 600 段の階段を下る。





アングロ・アイリッシュ文学の文人たちに繰り返し賞賛されたギャップ・オブ・ダンロー（石橋の北側斜面）

◆ギャップ・オブ・ダンロー

アイルランド南西部の広大なキラニー国立公園に在る「ギャップ・オブ・ダンロー」（ダンロー渓谷）は、アイルランドの最後の氷河期に形成されたU字谷で、深い所で500 m以上の落差がある。渓谷の南側のロードブランドン・コテージから渓谷の北側のケイトカーニー・コテージまで南北に走る舗装された一本道が、この大渓谷に分け入る唯一のアクセスとなる。

延長11 kmにわたる舗装道路のうち、海拔241 mの渓谷頂点から北に向かって数kmの区間が、「ギャップ・オブ・ダンロー」を世に知らしめた秘境の中の秘境、ドラマティック街道だ。落石によって現在もしばしば遮断される一本道は、両側から迫る岩山の裾を這い回り、氷河で削られたU字谷の谷底を縫うように走る。細い清流を渡ったかと思えば、突然現れた氷河湖を迂回しながら、山岳道はグングンと高度を下げていく。道すがら次々に移り変わる荘厳な景色は、古くから旅人を魅了して止まない。ディケンズと並ぶ19世紀の英国ロマン派作家サッカレーは、「ギャップ・オブ・ダンロー」の息を呑む景観美を余す所なく描写した。現在も旅人以外に人の立ち入ることの少ない「ギャップ・オブ・ダンロー」を昔ながらの頭馬車が観光客を乗せて往来する。



氷河のつくったU字谷、ギャップ・オブ・ダンロー



ウィッシング・ブリッジ（願掛けの橋）を渡る。



人馬一体となり、神秘的な秘境ギャップ・オブ・ダンローを駆け巡る。



海拔241 mの最高地点を通過する馬車



ギャップ・オブ・ダンローの谷底を馬車が行く。

◆終わりに

以上、クリーンで神秘性を潜めたアイルランドの個性的な自然景観を紹介した。もちろん、アイルランドは対岸のイギリスに勝るとも劣らない文化国家。音楽、舞踊、文学の分野に世界的なスターを多数輩出してきた。文化人のゆかりの地を訪ねる旅から始まり、ケルト人の遺跡、史跡やアイルランドの古城を訪ねる旅、発展著しい首都ダブリンとベルファスト（北アイルランド）の都市巡りは、アイルランド探訪の折には欠かせない観光コースとなろう。

さらにもう1つ、アイリッシュ・フードについて付言しよう。もともと、伝統的な農水産国であるアイルランドの食材は、ナチュラルでクオリティの高いことで知られる。アイリッシュ・ビーフ、アイリッシュ・サーモン、アイリッシュ・ロブスター、ロック・オイスターなど、グルメな食材が勢ぞろいする。良質低廉な食材を最新流行のフレンチ・スタイルで調理し供されるアイリッシュ・キューゼーンは、グルメな旅行者にとって垂涎的。「エメラルドの島」アイルランドの観光が、今、大いに注目される。



ケルト音楽とアイリッシュ・ダンスを披露するダブリンの繁華街テンプルバー



パステルカラーの建物が美しい港町キンセール



ミュージシャンのメッカ、ゴールウェー市



最古の聖書の写本を所蔵するトリニティ・カレッジ図書館



(左) アイリッシュ・ダンス
(中) テンプルバーのミュージシャン
(右) スコットランド衣装のキルト姿の男性をよく見かける。